

いちごの灰色かび病の発生増加に注意しましょう

2月3～6日に行ったいちごの巡回調査で、灰色かび病の発生が平年より多く見られました（発生ほ場率19%（平年比203%）、図1）。12月上旬以降、気温が高く、日照時間が少なかったことと1月下旬に降水量が多かったため、施設内が多湿となり、本病の発生に好適な状況であったと考えられます。

今後、降水量は平年並ですが、日照時間は平年より少ないとの1か月予報から、本病の発生増加が懸念されます。適切に防除を行い、被害の発生を防止しましょう。

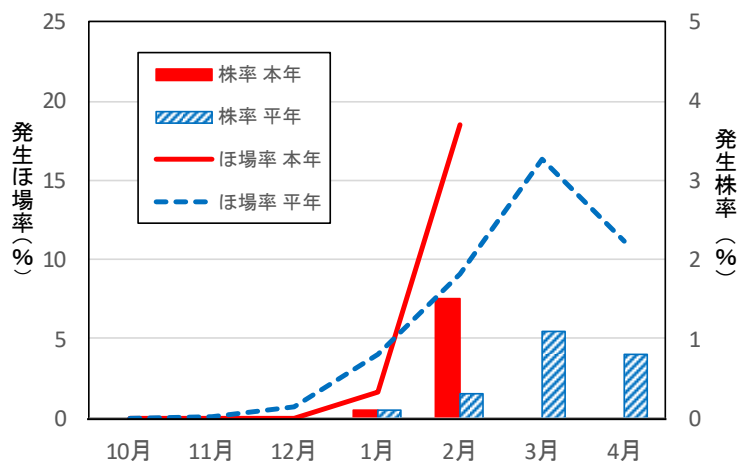


図1 発生状況



写真1 発病した果実

【防除対策】

- ・下葉を除去し風通しをよくするとともに、かん水過多にならないようかん水量に注意し、施設内の湿度低下に努める。
- ・発病した果実、果梗や枯死葉等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
- ・薬剤散布は予防主体に行う。RACコードを参考に、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する（[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターホームページに掲載中）。
- ・曇雨天が続く場合はくん煙剤を使用する。

表1 イチゴ灰色かび病の防除に使用する主な薬剤（令和2（2020）年2月13日現在）

農薬の名称	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	FRACコード
スミレックス水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	2
ロブラール500アクア	散布	収穫前日まで	4回以内	
ロブラールくん煙剤	くん煙	収穫前日まで	4回以内	
アフェットフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	7
ネクスターフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	9
フルピカフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
ファンタジスタ顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	11
セイビアーフロアブル20	散布	収穫前日まで	3回以内	12
ピクシオDF	散布	収穫前日まで	4回以内	17
シグナムWDG	散布	収穫前日まで	2回以内	11・7
ジャストミート顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	17・12
サンヨール	散布	収穫前日まで	6回以内	M1
ダイヤモンド	散布	収穫前日まで	3回以内	M7・17
ラミック顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	2回以内	M7・50

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは当センターHP（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）、ツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」でもご覧になれます。